

1 日 時 令和5年10月2日（月）第5時限（14時30分～15時15分）

2 場 所 2年1組教室

3 学年・組 2年1組（29名）

4 単 元 名 「同じ人物が出てくる物語を読んで、ミニ新聞を書こう」

5 教 材 名（資料名）（使用教科書・出典）

中核教材『お手紙』（こくご 光村図書 赤とんぼ 2年下）

補助教材『おはなし』『おちば』『ぼたん』『クリスマス』『よていひょう』など、
アーノルド＝ローベル作品（出典 文化出版局）

6 児童観

(1) 音読について

1学期教材『ふきのとう』では、登場人物の様子を想像しながら、聞いてもらう相手に物語の様子が伝わるように読み方を工夫して音読劇を行った。音読劇を行うために、登場人物の気持ちを考えたり、教科書には載っていないセリフをグループで考えたりした。そうすることで、より物語の様子について考えることができた。

(2) 物語文について

1学期教材『スイミー』では、中心人物のスイミーの心情を読み取る活動を行った。スイミーの気持ちに寄り添うことができるように、吹き出しを使ってスイミーの気持ちを考えていった。ほとんどの児童が、吹き出しの中に自分で想像したスイミーの気持ちに根拠を持って考えることができたが、「自分だったら」と自分に置き換えて考えられる児童は少なかった。

7 教材観

(1) 本教材の物語の概要

中核教材の『お手紙』は、友達思いでしっかり者のかえるくんと少しおっちょこちょいでのんびり屋ながまがえるくんの日常や友情を描いた、心温まる物語集『ふたりはともだち』に収められている物語の一つである。誰からもお手紙をもらったことがないと悲しむがまくんを、かえるくんが思いやり、お手紙を書いてあげることで、がまくんが喜び、ふたりは幸せな気持ちになるという物語である。また、お手紙を書くこと、もらうことを通してかえるくんとがまくんの友情が深まる。児童はかえるくんの思いやりの心に触れ、思いやりの大切さに気付くことができると思われる。場面が変わるとともに、二人の登場人物の行動や心情の変化が捉えやすくなっているため、登場人物の行動や心情の理由を想像したり読み取ったりする力をつけさせるのに適した教材であると考えられる。また、会話文が多い教材であるため、どのような表情、口調、様子だったのかを具体的にイメージすることができ、二人の気持ちになりきって読み進めている教材である。

(2) 物語の構成

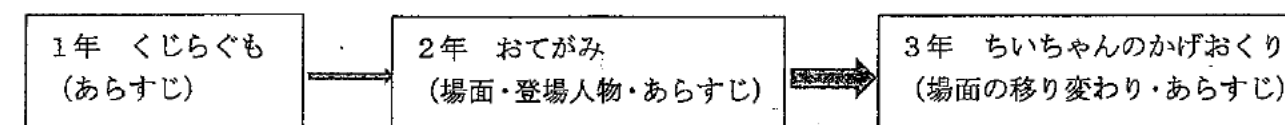
本文に出てくる場所が「かえるくんの家」と「がまくんの家」の2か所で、場所や時で場面分けをすることができ、第1場面は「がまくんの家」、第2場面は「かえるくんの家」、第3場面は「がまくんの家」、第4場面は「がまくんの家でお手紙を受け取った四日後」の4場面に分けることができる。

家」、第4場面は「がまくんの家でお手紙を受け取った四日後」の4場面に分けることができる。

第1場面（がまくんの家）…冒頭「がまくんは、げんかんの前にすわっていました。」～P15L3まで
第2場面（かえるくんの家）…P15L4「かえるくんは、大いそぎで家へ帰りました。」～P16L10まで
第3場面（がまくんの家）…P17L1「それから、かえるくんは、がまくんの家へもどりました。」～P23L1まで
第4場面（四日後）…P23L2「四日たって、かたつむりくんが、がまくんの家につきました。」～最後まで

4	3	2	1	
お手紙をもらう。	①お手紙が届くこと、その内容を ②二人でお手紙を待つ。	がまくんに お手紙を書いて、かたつむりくんが配達をお願いする。	がまくんと一緒にお手紙を待つ。	がま
お手紙をがまくんに渡す。	①お手紙を出したこと、お手紙の内容を話す。 ②二人でお手紙を待つ。	がまくんに お手紙を書いて、かたつむりくんが配達をお願いする。	がまくんと一緒にお手紙を待つ。	かえる

(2) 単元の系統性（構成図）



8 指導観

本単元では、学習指導要領における【思考力・判断力・表現力】の「C読むこと」(1)オ「文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。」を目標とする。児童はこれまでに、登場人物の行動を読み取り、様子を思い浮かべながら物語を読むことを学習している。また、物語を読んで、自分ならどのような気持ちになるかを考えて感想を持つ学習をしてきている。そうした経験を踏まえ、本単元では、登場人物の行動や会話を読み取り、読み取ったことと、自分の体験を結びつけながら感想を持つことができるようにしたい。そのために、以下のような指導を行う。

(1) 自分の経験と結び付けて考えさせる。

物語を読むとき、児童は自分の経験と結びつけることで、登場人物の気持ちを想像したり、登場人物に共感したりすることができやすくなる。また、自分との共通点や相違点を見つけることで、感想を持つことができる。

「自分だったら」と自らを重ね合わせて仮定することで、人物について想像を広げる活動を取り入れる。これは、第3学年及び第4学年では、「登場人物の行動や気持ちなど」を読み取り、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景」を具体的に想像する力へとつなげる活動とする。

(2) 言語活動として、ミニ新聞を書かせる。

アーノルド＝ローベル氏の作品を読んで、ミニ新聞に内容や感想を書き、伝え合う活動を第3次に取り入れる。同じ物語を読んでも心に残るところや、感じたり考えたりすることは一人ひとり異なることを感じる。

させる。さまざまな感じ方や考え方に触れることで、物語を読む際に着目する視点を広げさせ、自分の体験との結びつけ方を豊かにさせる。

ミニ新聞を交流する際には、友達との相違点に目を向けさせ、どうしてそう感じたのかを質問し合うようにする。

(3) 根拠を持って、登場人物の気持ちを想像させる。

吹き出しを使って、人物の気持ちを叙述や自分の経験と結び付けながら想像させ、自分の考えに理由を付けて発表させる。そうすることで、クラス全体で理由や根拠となる叙述を考えさせることができる。根拠なく想像するのではなく、どこからそう感じたかを話すことで、本文を改めて読み直し、さらに読みを深めさせたい。

(4) 音読をしながら、登場人物の気持ちを想像させる。

人物の行動と様子を思い浮かべる際に、音読や動作化を取り入れさせる。繰り返し音読することで、児童は内容を理解しやすくなる。また、音読する際にかえるくんやがまくんがどのように話しているかを想像することで、人物の気持ちを具体的に考えることができると考える。

9 単元の指導目標と評価規準

観点	単元目標	評価規準
知識・理解	①読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。(3)エ	①アーノルド＝ローベル作品を読んで、読書に親しみ、身の回りに様々な本があることを知る。
思考・表現・判断	①場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ ②文章を読んで、感じたことやわかったことを共有することができる。C(1)カ ③文章の内容と自分の体験を結び付けて感想を持つことができる。C(1)オ	①場面の様子に着目して、かえるくんとがまくんの気持ちに理由をつけて想像している。 ②感じたことや分かったことに理由をつけながら友達と共有している。 ③かえるくんとがまくんの気持ちを自分と結び付けながら考えている。
主体的に学習に取り組む態度	①アーノルド＝ローベル作品を読むことを知り、学習に意欲的に取り組もうとしている。 ②学習経験や読書経験を振り返って学習課題を明確にし、進んで場面の様子を想像しながら物語を読み、好きなところをミニ新聞に書いて紹介しようとしている。	①アーノルド＝ローベルの作品に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 ②1次・2次で学習したことをもとに、アーノルド＝ローベル作品をミニ新聞にまとめようとしている。

10 指導ならびに評価の計画(全△時間)

次	時	○児童の学習活動 ☐ めあて ☐ 発問 ※予想される児童の発言	・指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	1	1. お手紙を書いた時、貰った時の気持ちを考える。 2. 絵本で『お手紙』の読み聞かせを行う。 3. 挿絵を物語のあらすじ通りに並べる。 4. もう一度『お手紙』をCDで聞く。 5. 初発の感想を書く。	・もし自分だったらという視点で児童に考えさせる。 ・会話文を意識して感情を込めて読み聞かせをする。 ・挿絵を教師ではなく児童自身に並べ替えさせる。 ・第一場面でがまくんとかえるくんが玄関に座って手紙を待っている様子の挿絵と第三場面で二人が玄関に座って手紙を待っている様子の挿絵の二人の表情の変化に気づかせる ・感想文を書く時は最初のマス目を空けることを確認させる。	【主①】アーノルド＝ローベルの作品に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (ノート・発言・ワークシート①)
	2	1. 登場人物を確認する。 2. 場面分けの方法を確認する。 3. 教師の音読を聞いて、場面が変わったと思う部分で手を挙げる。 4. 1～4場面のがまくん、かえるくんの行動をまとめる。 5. 補助教材『おちば』の読み聞かせを行う。	・挿絵を使ってがまくんとかえるくんの見た目の違いも確認する。 ・場面と段落の違いを説明する。 ・場面分けのために時、場所、人物の変わり目を意識させる。 ・場面分けは人によって変わるものであり、間違いは無いことを伝える。 ・挿絵を2人の行動を思い出すきっかけとして活用する。	【知①】アーノルド＝ローベル作品を読んで、読書に親しむ。
2	3	1. 一場面の場所、登場人物について確認する。 2. めあての提示をする。	・挿絵を活用して一場面での出来事も思い出させる。	【思①】場面の様子に着目して、かえるくんとがまくんの気持ちに理由

並行読書

	一場面のがまくんの気持ちを考えよう。 3. 教科書の「セリフ」の前に名前を書き込む。 4. 全体で一場面音読をする。 5. 教科書の「セリフ」の前に名前を書き込む。 6. かえるくんの気持ちを考えて、発表する。 7. がまくんの気持ちを吹き出しを使ってノートに書く。 ペアで交流する。 発表する。 8. ノートに一場面での がまくんの一番の気持ちとその理由を書く。 発表する。 9. がまくんの1番の気持ちを考える。 10. 補助教材『おはなし』の読み聞かせを行う。	並行読書 ・プロジェクターを使って書き方の見本を示す。 ・会話文では、だれが話しているのか確認するために、会話文の前にかえるくんは「か」、がまくんは「が」と書かせる。 ・机の上に何を出してノートに何を書くか一つ一つ簡潔に指示を出す。 ・がまくんのイラストも自分で描かせることで登場人物に親近感や愛着を湧かせる。 ・吹き出しを使うことでがまくんの気持ちになりきったセリフを引き出す。 ・自分の意見に理由を持たせたり、本文ではどの部分を見て考えさせたりする。 ・自分ががまくんだったらいという視点でも考えさせる。	をつけて想像している。
4	1. 本時の活動を知る。 2. 二場面の場所、登場人物について確認する。 3. めあての提示をする。 二場面のかえるくんの気持ちを考えよう。 4. 全体で音読する。 5. 教科書の「セリフ」の前に名前を	・1時間分の活動内容を軽く説明することで授業に見通しを持たせて、場面ごとに読み取る時のパターンを知ってもらい今後のスムーズな授業進行に繋げる。	【思②】友達と感じたことや分かったことに理由をつけながら共有している。

	書き込む。 6. かえるくんの気持ちを考えて、吹き出しを使ってノートに書く。 ペアで交流する。 発表する。 7. かえるくんの1番の気持ちを考える。 8. 補助教材『よていひょう』の読み聞かせを行う。	並行読書 ・個人でノートに書く作業をする前に数人に発表してもらい、書くことが難しい児童への支援とする。 ・なんで手紙を書いたのかな？など行動に対する理由を考えさせる。 ・かえるくんの気持ちをかぎかっこを使って書かせることでかえるくんに感情移入しやすくさせる。	
5	1. 三場面前半の場所、登場人物、出来事について確認する。 2. めあての提示をする かえるくんとがまくんの気持ちを考えよう。 3. 全体で三場面前半の音読をする。 4. 教科書の「セリフ」の前に名前を書き込む。 5. かえるくんの気持ちとがまくんの気持ちを考えて発表する。 6. 自分がかえるくんだったらお手紙を書いたことをがまくんに伝えるかどうか考える。 7. かえるくんとがまくんの1番の気持ちを考える。 8. 補助教材『なくしたボタン』の読み聞かせを行う。	・発表者の意見を聞く人の態度も指示する。	【思③】かえるくんとがまくんの気持ちを自分と結び付けながら考えている。

6	1. 三場面後半の場所、登場人物、出来事について確認する。 2. めあての提示をする かえるくんとがまくんの気持ちを考えよう。 3. 全体で三場面後半の音読をする。 4. 教科書の「セリフ」の前に名前を書き込む。 5. かえるくんの気持ちとがまくんの気持ちを考えて発表する。 6. 『ああ。』『とてもいいお手紙だ。』というセリフをがまくんになりきって音読する。 7. 『長いこと待っていました。』の時の2人の気持ちを考えて発表する。 8. かえるくんとがまくんの1番の気持ちを考える。 9. 補助教材『はるがきた』の読み聞かせを行う。	並行読書	・自分がかえるくんだったらお手紙を書いたことを言う派と言わない派に分かれて挙手することで自分とかえるくんと比べさせる。 ・『親愛なる』の意味について説明する。 ・机間指導の際に児童の意見を見て当てる順番や発問の仕方を考える。 ・がまくんにとって、とてもいいお手紙とは何か考えさせる。 ・かたつむりくんに頼んだ理由に繋がるような発問を行う。 ・お手紙の内容を話したことが、がまくんにとって良かったどうかを考えさせる。	【思③】かえるくんとがまくんの気持ちを自分と結び付けながら考えている。
	7 1. 四場面の場所、登場人物、出来事について確認する。 2. めあての提示をする かえるくんとがまくんの気持ちを考えよう。 3. 全体で四場面の音読をする。 4. かえるくんの気持ちとがまくんの気持ちを考えて発表する。 5. かえるくんとがまくんの1番の気持ちを考える。 6. 補助教材『クリスマスイブ』の読み聞かせを行う。		・本文からよりも自分だったと想像して書くことに重点を置く。 ・四場面だけではなく全体を通して考えさせる。	【思③】かえるくんとがまくんの気持ちを自分と結び付けながら考えている。

8	本時	1. 今までの学習を振り返る 2. めあてを提示する。 がまくんがーばんうれしかったところはどこか考えよう。 3. 四つの場면을振り返り、がまくんが喜んでいる描写のある場面を絞り込む。 4. 三場面後半から四場면을音読する。 5. がまくんがーばんうれしかった一文を探す。 ノートに書く。 7. がまくんにお手紙を書く。	並行読書	・会話文に注目しふたりの気持ちになりきって音読させる。 ・がまくんの気持ちを考えた上で、実際に自分もお手紙を書くことで人のために行動したかえるくんとお手紙をもらったがまくんの喜びを体験させる。	【思①】場面の様子に着目して、がまくんの1番嬉しかった1文に理由をつけて想像している。
		3 9 1. 今までの学習を振り返る 2. めあてを提示する。 がまくん・かえるくんのシリーズを読んで、ミニ新聞を書こう。 3. 『お手紙』のあらすじをまとめる。 4. 『お手紙』の感想を書く。 5. アーノルドローベル作品の中で好きな作品を選ぶ。		・単元を通して学習したことを振り返って、学んだことや感じたことを書かせる。	【知】①アーノルド＝ローベル作品を読んで、読書に親しみ、身の回りに様々な本があることを知る。

1 0	1. めあてを提示する。 がまくん・かえるくんのシリーズを 読んで、ミニ新聞を書こう。 2. 自分の好きなアーノルドローベル作品のあ らすじをまとめる。 3. 自分の好きなアーノルドローベル作品の感 想を書く。		【主】②1次・2 次で学習したこと をもとに、アーノ ルド＝ローベル作 品をミニ新聞にま とめようとしてい る。
1 1	1. ミニ新聞を友達と交流する。		

1.1 本時の展開

(1) 本時の目標

『お手紙』全体を通してがまくんが一番嬉しいと感じた一文を考えることができる。

(2) 本時の流れ

時間	○児童学習 □発問 ※予想される児童の反応	・指導上の留意点	・ルーブリック
0分	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 4つの場面を振り返り、がまくんが喜んでいる描写のある場面を絞り込む。	・過去のノートや板書を見て場面ごとに登場人物の1番の気持ちを考えたことを思い出させる。 ・3場面の後半から4場面でがまくんが喜んでいることを思い出させる。	
5	めあて がまくんが一番うれしかったところはどこか考えよう。 4. 3場面の後半～4場面を音読する。 5. がまくんが一番うれしかった一文を探す。 ①ノートに書く。 ②隣の人と意見を交流する。 ③発表する。 ・会話文に注目して、がまくんとかえるくんの気持ちになりきって音読をさせる。 ・今まで学んだことや経験を踏まえて、自分だったらどうするか、理由も一緒に考えさせる。		【思①】がまくんが一番嬉しかった気持ち一文に理由をつけて考えている。 A：前時までの学習や叙述、自分の経験を根拠にして、自分の考えを書いている。 B：がまくんの気持ちを自分なりに考えている。 C→B（手立て） ・1場面のがまくんの気持ちと比べさせる。 ・友達の意見を参考にし自分なりの理由を考えさせる。
15	補助発問 友達の話聞いて意見変わった人はいるかな。 ※「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちでそこにすわっていました。」だと思えます。りゆうは、かえるくんが、お手紙をくれると話したからです。 ※「とてもいいお手紙だ。」だと思えます。りゆうは、親友と言われたからです。 ※お手紙をもらって、がまくんは、とてもよこびました。」だと思えます。りゆうは、はじめてお手紙をもらったからです。 ※「だって、ぼくが、きみにお手紙を出したんだもの。」です。りゆうは、かえるくんが、お手紙を書いてくれたからです。 ※「きみが。」だと思えます。りゆうは、大好きなともだちからお手紙をもらえるからです。 ・自分の意見と、友達の意見をくらべさせて、より自分が考えるがまくんの1番嬉しいところを見つけさせる。		

35	6. がまくんに手紙を書く ※がまくんへ、かえるくんがお手紙を書いてくれてよかったね。お手紙のないようもすてきだね。	・前時までの授業で考えたがまくんの心情を踏まえて、自分の目線から手紙を書かせる。	
----	---	--	--

12 本時の板書計画

めあて がまくんが一番うれしかたところはどこか
考えよう。

か とてもいいお手紙だ。
りゅう

ありがとう、はじめてのメッセージがうれしい。

か だてはくがきみに、お手紙出したんだもの。
しゅうながたらべッドから出づれなかった。
はじめてのお手紙
うれし
しあわせ
やだー

そしてかえるくんからのお手紙をわたしました

か お手紙に、なんて書いたの。
うれしかったのしみにしていた。

がまがえるくんへ